

愛知大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

2023（令和 5）年度 自己点検・評価報告書

自己点検・評価を行う体制

愛知大学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会

責任者 中尾 浩（教学担当副学長） 2023 年 11 月 14 日まで

加納 寛（教学担当副学長） 2023 年 11 月 15 日から

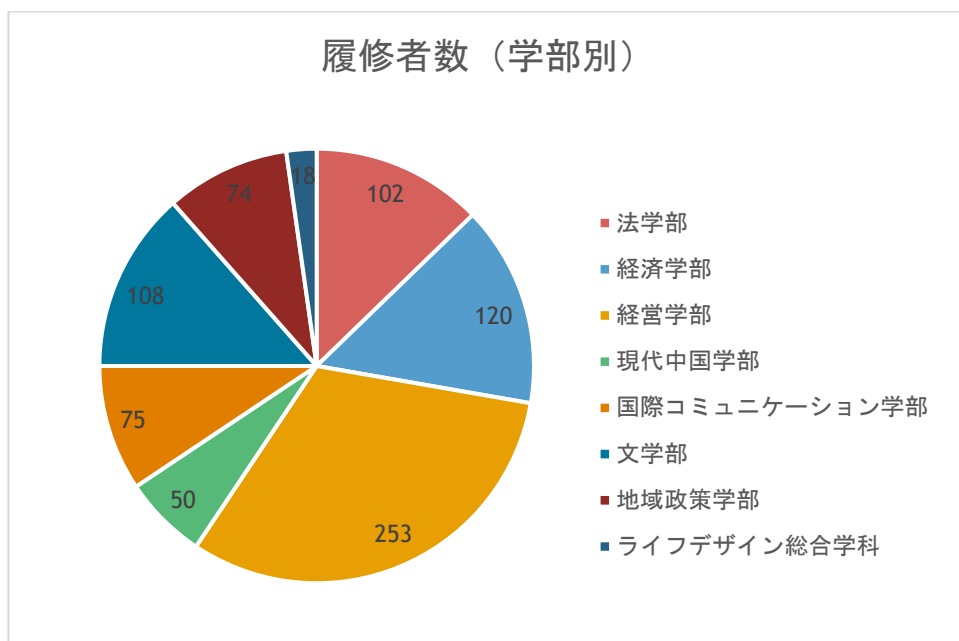
2023（令和 5）年度の状況

プログラムの履修状況

全学生数 9,714 名（うち 2022 年度以降入学生数 4,811 名）

履修者数※ 800 名（うち 755 名が修了） 履修率 17%

※2022 年度以降入学者のみ履修可能



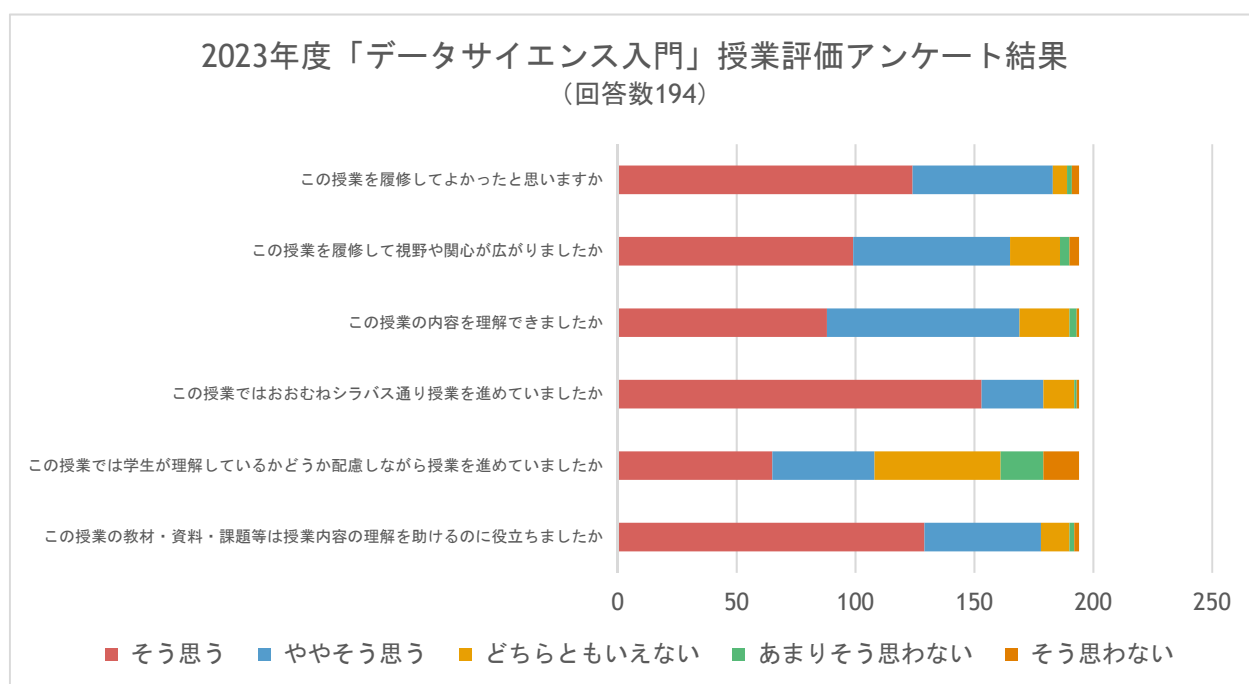
学内からの視点

プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

- 本学名古屋、豊橋校舎の各教務課にて本プログラムの履修・修得状況を管理するとともに、これらのデータは本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会と共有し、本プログラムの評価・改善に活用している。
- 本学学習・教育支援センターが実施している「学生による授業評価」アンケートの結果を分析することによって本プログラムの授業内容に対する学生の理解度を把握することが可能である。アンケート結果は本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会と共有し、本プログラムの評価・改善に活用している。

学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、後輩等他の学生への推奨度

- 本学学習・教育支援センターにて毎年度「学生による授業評価」アンケートを実施している。本アンケート結果は本学学習・教育支援センター委員会にて集約され、本学ホームページ上で公開している。また、このアンケート結果は、本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会にも提供され、同部会において本プログラム受講者の理解度等の分析に役立っている。
- 本プログラム受講者に対し、2023 年 7 月及び 12 月に実施した「学生による授業評価」アンケートの中で、後輩等他の学生への推奨度について確認を行った。その結果を学生へ公開することで、講義受講の推奨に活用する。



履修者の声（2023 年度授業評価アンケートより）

- この授業を履修して視野を広げることができました。これからも生かせるようなことを学ぶことができました。
- オンデマンド授業を受けるのは初めてで第一回は多少戸惑うこともありましたが、丁寧な手順説明でとても分かりやすかったです。また、音声付きの資料なども理解する手助けとなり、難しい内容でしたが、資料を杖として何とか課題などを完遂することができました。
- 自分のペースで進められる良い授業だと思った。また、エクセルの簡単な計算ならできるようになったと感じた。
- オンラインでの履修となったが、科学的分野や、パソコン操作など、知らなかった知識を習得できた。
- Excel の演習課題でセルの絶対参照の説明が文面だけで、さらっと流されていたように感じるので、もう少し苦手な方への配慮をしていただきたいと思います。
- こういった遠隔の授業は質が安定しているし、気になった事があれば戻って再生することもできる。こういう遠隔の授業をもっと増やしてください。
- AI やデータのことは高校の頃には取り組んだことがなく、この講義を受講したことにより興味が広がった。特に資料が分かりやすくまとめてあり復習する際大変役に立った。
- とてもわかりやすい教材だと思いました。

全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

- ・プログラム全体の履修者数は 800 名で、そのうち修了者は 755 名（94%）であった。履修率は 17%と高くないが、申込者数は以下ようになっており、定員に対する履修率は非常に高くなっている。確保していた定員枠 800 名はすべて埋まっており、本科目への関心の高さが伺えるため、定員を増やすことで履修率向上を図る予定である。

	春学期			秋学期		
	定員	履修者	申込者数	定員	履修者	申込者数
名古屋校舎	300	300	460	300	300	482
豊橋校舎	200	90	95	110	110	135

※ 秋学期の定員は、当初予定（名古屋校舎 200 名、豊橋校舎 100 名）に豊橋校舎春学期の定員残数 110 名（名古屋校舎に 100 名、豊橋校舎に 10 名）を追加して設定した。

学外からの視点

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価に関する事項

- ・本プログラムは令和 4 年度より開講され、当該科目を修得し、単位を修得して卒業した学生として初めて短期大学部生 20 名を輩出した。その進路先は商社、メーカー、サービス業を主とし、Web デザイナーやシステムエンジニア、プログラマーの職種に就いた者が含まれる。活躍状況、企業等の評価については、本学キャリア支援センターにて、卒業後 3 年が経過した卒業生を対象に実施するアンケート調査により、把握することが可能となる。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等に関する事項

- ・自治体や企業等に対して、本プログラム内容・手法等への意見を、数理・データサイエンス・AI 教育運営部会長がまとめ、数理・データサイエンス・AI 教育運営部会で、企業等が大学に対してどのような期待や習得すべき技能や知識を求めているかなどを把握しプログラムの改善に活用していく。

改善に向けた取組

数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

- ・「データサイエンス入門」について、身近な社会における AI の利活用をテーマしており、数理・データサイエンス・AI 教育を実体験に即した経験として考えることができ、学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解するように促している。また、「社会データ分析入門」「情報と社会」（1 年次春学期より履修可）を履修することにより、学修効果を高める。

内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

- ・本学数理・データサイエンス・AI 教育運営部会にて「学生による授業評価」アンケート等を参考にし、随時、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しについて検討している。
- ・オンデマンド型の授業ではあるが、Excel の実習課題でうまくできない学生には Teams などの画面共有機能を活かしてフォローを行っている。
- ・複数の学生から同様の質問が出てくる場合には、その質問に解答するための動画などを別途作成することで理解度を高められるようにしている。